

## 彫刻作品「ザブーン」 役場庁舎1階に展示中



妹背牛町役場  
正面入口付近

北海道の内陸に生まれた高橋さんはなぜ、妹背牛にない海の波に着想を得たのでしょうか。日本を代表する漫画家・鳥山明さん（故人）に憧れた青年時代に飛び込みます。



### 高橋喜代史さん 49歳

・美術家  
・妹背牛町出身 ・札幌市在住  
・波に飛び込む音を可視化した「ザブーン」で、2021年の第3回本郷新記念札幌彫刻賞を受賞。この受賞作品を令和7年3月末までの約1年間、故郷の妹背牛に無償貸与。

北海道の内陸に生まれた高橋さんはなぜ、妹背牛にない海の波に着想を得たのでしょうか。日本を代表する漫画家・鳥山明さん（故人）に憧れた青年時代に飛び込みます。

2007年の夏、滞在していたニューヨークの友人から波に飛び込む「ザブーン」という遊びを教わります。

人を飲み込む津波の恐ろしさではなく、海の豊かさを感じることができた喜びは、地震の多い日本で育った高橋さんのアーティスト人生において、大きな刺激を与えました。

波から連想される驚異と喜びの相違点は、360度ぐるりと作品を見渡した時の印象の違いに表れています。

波に飛び込む浮遊感を表現した「ザブーン」の文字からは、鳥山さんの代表作「ドラゴンボール」の戦闘シーンを盛り上げる効果音のような迫力が伝わってきそうです。

## となりの外国人

ベトナム人の地域おこし協力隊員が  
町内の外国人を紹介する企画です。

在留資格「特定技能」の制度を利用して、妹背牛町内の佐藤 鋳工株式会社で働くグエン・ティ・アインさん（24）が、日常会話が上手にできるレベルの日本語能力試験「N2」（※英検2級相当）に見事合格しました。新コーナー「となりの外国人」のインタビューでは、お互いに日本語での質疑応答になりました。

アインさんは、ベトナム人の地域おこし協力隊員らが講師を務める日本語勉強会に積極的に参加。石の上にも三年という思いを持ち続けながら、製品の品質を管理する仕事を終えた後も、自宅で日本語の勉強を続けてきました。

アニメをきっかけに、日本に興味を持ったアインさんは2020年12月に妹背牛町へ。最初は慣れない日本語に苦労しましたが、今では職場の人たちと楽しく会話ができるほど語学力が上達しました。



日本語能力試験「N2」に合格した  
グエン・ティ・アインさん

インタビューする地域おこし協力  
隊のズオン・ティ・フオンさん

「妹背牛は住みやすく、町民のみなさんがとても親切です」と笑みを浮かべるアインさん。インタビューの最後に、仕事も勉強も頑張るアインさんに将来の目標を聞きました。

「今年12月の試験でN1に合格したい。日本が好きなので将来は日本語の通訳者になりたいです」

そう話すアインさんのキラキラとした表情から、大きな夢への挑戦を感じました。